

「読書の持つ魅力」

理科 有馬一貴

皆さんは「読書」を、難しいもののように感じてしまっていないでしょうか。難しい文学作品や評論文などを読むことだけが読書ではありません。小説はもちろんのこと、漫画を読むことなども読書の一部だと私は思います。そういった観点でみると、私は読書がとても好きです。小説や漫画は、活字を読むことが苦手な人でも手に取りやすい本だと思います。まずは、面白いと評判の本を手にとってみることをお勧めします。

さて、「私は読書が好き」と言いましたが、読書のどのような部分が好きかというと、キャラクターの感情が動くシーンです。私ははじめ、派手な演出が施されているシーンにしか面白さを感じていませんでした。もちろん今でも、そういったシーンは面白いと感じるのですが、それ以上にキャラクターの感情の機微に面白さを感じるようになりました。これに気づかせてくれたのは、漫画でした。

当時中学生だった私は、文字から登場人物の心情を読み取るのがあまり得意ではなく、小説などを読んでも面白さをあまり感じていませんでした。しかし、漫画は違いました。兄がよく漫画を読んでいて、それを読ませてもらっていたのですが、登場人物の抱く感情が、それぞれのシーンにおいて、絵で繊細に描写されている漫画は、とても面白く、キャラクターへの感情移入も容易でした。これをきっかけに様々な漫画を見て、セリフや描写からキャラクターの感情を読み取ることができるようになりました。その後、苦手だった小説を読んでみると、キャラクターの台詞や背景の描写などから鮮明にその場面が浮かんでくるようになり、これまでとは比べ物にならないくらい、本を読むのが楽しくなりました。

今の時代、YouTube や Netflix などの登場によって、動画がこれまで以上に簡単に視聴できるようになり、活字を読む機会は、減ってきていると思います。漫画もすぐにアニメ化され、原作を読まずともその作品を楽しめるようになりました。

しかし、文章（文字）でしかできない表現もあると思います。ある単語に、全く逆の意味のフリガナを振ってみたり、同音異義語をうまく用いて違う意味の単語にしてみせたりと、文字が生み出す表現の幅は非常に多彩です。

また、小説などでは、視覚的な情報がない分、自分の頭の中で小説の場면을想像して膨らませる体験は、他では味わえない感覚だと思います。

皆さんもまずは気軽に手に取りやすい小説や漫画から、文章の持つ魅力を感じてみてはいかがでしょうか？

☆ 貸出し冊数 1.9 冊 ☆

6月末までの一人あたりの平均貸出し冊数です。前期生は、0.2冊、後期生は、2.3冊でした。

(多くは語りませんが、「3年生、図書館に来てね〜。」)

9月には、読書冊数調査を行います。何冊になるか、楽しみにしています。

～7月の新刊紹介～

- 『光が死んだ夏1』『光が死んだ夏2』 額賀濤 【著】
- 『一次元の挿し木』 松下龍之介 【著】
- 『ありか』 瀬尾まいこ 【著】
- 『クロエとオオエ』 有川ひろ 【著】
- 『学生街の殺人 新装版』 東野圭吾 【著】
- 『気くばりのススメ』 中山秀征 【著】
- 『パズルと天気』 伊坂幸太郎 【著】
- 『アンパンマンの遺言』 やなせたかし 【著】
- 『絶対「謝らない人」自らの非をけって認めない人たちの心理』 榎木博明 【著】

(この他、理科の先生のおススメの『最強に面白い物理』『最強に面白い宇宙』『最強に面白い地球46億年』『最強に面白い単位と法則』(すべてNewton発行の新書)も図書館にあります。)

夏休みの開館について

- ☆ 開館日 7月22日(火)～7月30日(水)
(但し、木・土・日は閉館します。)
- ☆ 開館時間 11:30～16:30
- ☆ 貸出しについて 貸出しの方法は通常と同じですが、冊数に制限はありません。
- ☆ 本の返却日 2学期の始業式(8月25日(月))に返却してください。



クイズ第3弾! (今回は『東大ナゾトレ 第2集』からの出題です。)

?に入る言葉は、なんでしょう。

90-2=球児 25-3=虹 19-2=重機 11-1=?

★前回のクイズの答え

あたためてできるものは何でしょう?

答え かこおりもう→ かみずもう